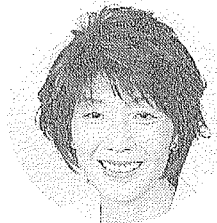


寄稿

NPO法人ヘルスケアネットワーク副理事長 作本 貞子

提
言

高齢ドライバーと健康起因事故防止対策



の中、解消の決め手となるのが、経験豊富な高齢ドライバーの活用ですが、懸念されるのはやはり体調管理や病気の付き合い方です。ドライバーの居眠りや体調不良が多くの乗客や他者を巻き込む大惨事につながりかねないことは、他産業と全く異なる点です。

運輸業における交通事故全体が年々減少している反面、健康起因による事故はこの10年間で約3倍と急増しています。その要因のひとつには、年々加速するドライバーの高齢化があり、深刻なドライバー不足

の、解消の決め手となるのが、経験豊富な高齢ドライバーの活用ですが、懸念されるのはやはり体調管理や病気の付き合い方です。ドライバーの居眠りや体調不良が多くの乗客や他者を巻き込む大惨事につながりかねないことは、他産業と全く異なる点です。

1. 定期健康診断の完全実施とそのフォロー

定期健康診断の受診は、労働安全衛生法において義務付けられている以上、「当たり前」とも思われがちですが、50人未満の事業者の場合、労働基準監督署への報告義務がないため、未受診ドライバーが存在しているとも考えられます。

けさせること、これが大前提となります。当法人では複数のトラック事業者の健診結果をお預かりして、その集計・分析・アドバイスを、さらに健康相談など、「健診の事後措置」に相当する事業を行っています。70%以上の方に何らかの異常があり、年代が上がるごとにその割合が増えています。もちろん1人で3〜4の異常値がある場合はさらにリスクが跳ね上がります。受診はドラ

定期健康診断の受診は、労働安全衛生法において義務付けられている以上、「当たり前」とも思われがちですが、50人未満の事業者の場合、労働基準監督署への報告義務がないため、未受診ドライバーが存在しているとも考えられます。

個人への踏み込んだ関与とともに不可欠なことは、啓発・教育の重要性です。「安全風土」という言葉はよく使われますが、それが当たり前として認知されるためには、社内での取り決め(社内規定)や、教育のルーチン化です。これらの積み重ねが当たり前に安全への意識を生み出すのではないのでしょうか。

2. 生活習慣まで踏み込んだ指導を

一昔前までは、多くの企業が「健康管理は個人の責任」という認識を持っていて、ドライバーの身体まで踏み込むとはしませんでした。

しかし、健康起因による事故急増の現実を目の当たりにし、じわじわと企業リスクを感じはじめた企業は、「もう個人任せにはできない」ということに気が付きます。

3. 社内教育の重要性

個人への踏み込んだ関与とともに不可欠なことは、啓発・教育の重要性です。「安全風土」という言葉はよく使われますが、それが当たり前として認知されるためには、社内での取り決め(社内規定)や、教育のルーチン化です。これらの積み重ねが当たり前に安全への意識を生み出すのではないのでしょうか。

高齢ドライバーに絞って言えば、視力や聴力等、機能低下でも加味した高齢者向けの健康・安全のための教育などが、有効ではないでしょうか。

今年も行政・業界・事業者など関係者とさらに積極的な意見交換をしながら、運輸業界の「健康・安全」を目指していきたいと思っています。